

分布：全国(北海道は南西部)

ヒナタイノコヅチ (ヒユ 科)

アキランテス ビデンタータ *Achyranthes bidentata* var. *fauriei* ファウリエイ

日向猪子藪 別名：イノコヅチ、フシダカ、コマノヒザ、サシ、イヌゲシ、ヒツキボウ、ヤブジラミ

主な生育場所

野原や荒地、路傍、畑、畦畔などの陽当たりの良いやや乾いた土地によく見られる。果実が人や動物に付着して運ばれるため、人里やその周辺に多い。

特徴

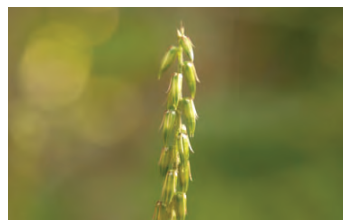
多年草で高さ0.5-1mほどとなり、茎は断面が四角形で直立し上向きの短毛を生やす。節は太く、紫色を帯びることが多く、葉は対生する。やや厚い葉は葉脈が目立ち、両面に毛を密生する。茎の先や葉腋から花穂をつける。花は緑色で目立たない。果実を包む包(ほう)の先は針状となって、衣類などに付着しやすい。



名前の由来：茎の節が太くなり、イノシシ(猪)の手や足のかかとに見立てて猪子藪。太い節は牛や馬の膝などにも喩えられた。

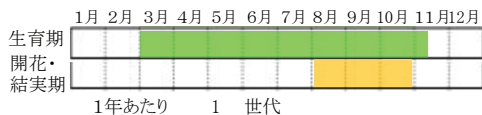
<農業との関係>

畑にもよく生え、強雑草化することがある。また、草刈りの少ない畦畔に生えたものは、放っておくと茎が硬くなり通行の邪魔となる。衣類などに果実が付着して運ばれることから、農業者が果実の運び手となりやすい。



花穂の様子(包の先が針状となっている)

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> 林内や木陰などに見られるイノコヅチ(ヒカゲイノコヅチ)は、葉の質が薄く、果実の基部に見られる耳状の膜質の付属物が大きくて目立つ。また、ヤナギのように葉が細くなるヤナギイノコヅチもある。



タマバエが寄生し虫こぶとなった節

<一言うんちく>

しばしば、茎の節の部分が異常に膨れることがあります。これはタマバエの幼虫が寄生し、虫こぶとなっているからです。この虫こぶの様子をみると、確かにイノシシの手足のようにも見えます。

<人との関わり合い>

果実やそれに連なる部分に付着しやすい構造を発達させ、よく衣服などにくっつきやすい植物の果実を「ひつつきむし」と呼び、イノコヅチは里地で見られるその代表格だが、気がつく袖や靴紐などに果実がくっついており、少々うざったい草花でもある。ただ、春の若芽はテンブラや胡麻和えにするとクセがなく食べられ、また地上部が枯れたころ採取した根を水洗いし乾燥させたものを牛膝(ごしつ)と呼び、利尿や強精効果があり、生の葉をよく揉むと、虫さされにも効くとされる有用植物の面も持つ。

<俳句や短歌への登場>

【季語：秋】

凡に過ぐ日々佳かりけり牛膝 (篠崎圭介)

友だちの友だちはみなみのこづち (下嶋四万歩)



農村の草花

2022年秋のオンライン一般公開版



農研機構 農村工学研究部門



分布：新潟・関東以西

ミズワラビ (ホウライシダ 科)

ケラトブレリス タリクトロイデス
学名: *Ceratopteris thalictroides*

水 蕨 別名：ミズシダ、ウォーターズプライト

主な生育場所

水田や畦畔、休耕田、水路、河川、ため池、湿地に生える。浅水域でよく見られ、水深の深いところには見られない。刈田のようにやや乾いた環境下にも生育し、ときに転作田に生えることもある。

名前の由来： 水辺に生えるワラビのような葉をつけるシダ植物で、ワラビと同様に食用となることから。

特徴

一年草のシダ植物で、短小な茎から葉を叢生する。草丈は変異が大きく、数cmから60cm程度まで。黄緑色で無毛の葉は2型あり、柔らかく不規則に分裂し裂片は幅広い栄養葉と、裂片は棒状でやや硬く裏側に反り返る孢子葉がある。孢子嚢は孢子葉の表面の葉脈状に並んで付く。また地下茎は短く塊状で少数の鱗茎を形成する。



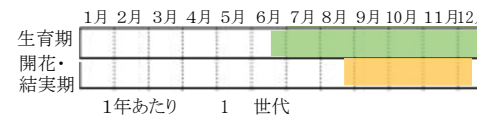
<農業との関係>

かつては関東以西の水田でよく見られた雑草であったが、後期発生型なのであまり問題となる害草ではなかった。除草剤などの影響により、一時期、各地で絶滅危惧種に指定されるほど減少したが、最近では、初期剤施用のみの除草剤処理体系の普及や、作期の早期化に伴う水稲収穫後期間の増大などに伴って、再びミズワラビが見られる水田が増加する傾向にある。



裂片が幅広くなる栄養葉

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> 他に似たような植物は見かけないが、孢子葉を刈田などで見かけるとその出芽初期はイネ科のスズメノカタビラの幼植物と間違うかも知れない。

<一言うんちく>

岡山県内で50年以上前の水田跡の土壌を採取し、平皿に薄くおいて灌水したところ、ミズワラビなど数種の植物の発生が認められました。このことから、ミズワラビの胞子は50年以上も寿命があることが実証されました。他にはイグサやアゼナ、タマガヤツリなどが発生してきました。



裂片は棒状でやや反り返る孢子葉

<人との関わり合い>

柔らかな栄養葉は、サラダや炒め物にして食べることができ、ときにスーパーなどで販売されることもある。しかし、孢子葉は苦くて食用には適さない。また、アクアリウムプラントとして、ミズワラビや外国産の近縁種がウォーターズプライト等の名称で利用されている。

<俳句や短歌への登場>

どこにでもある草ではないが、大型の個体もあったり、食用として利用されることもあったのに関わらず、ミズワラビが登場する詩歌は見ない。水田など身近な水辺に生え、ワカメなど海草にも似た栄養葉や、ときに火災のようにも見える孢子葉など、詩情をそそる形状だと思ふのだが。ぜひ、刈り田で水蕨をみかけたら、その風情を表現してほしい。

目次

分布: 全国

シロバナサクラタデ (タデ科)

ベルシカリア ヤボニカ
学名: *Persicaria japonica*

白花桜蓼 別名: タデモドキ, 楊貴妃蓼 (いずれもサクラタデを含めての別称)

主な生育場所

河川敷や用水路わき, ため池の縁などの水辺, 水田の畦, 休耕田などの湿地に生育する。洪水などの攪乱に会いやすい環境下でも群落を形成する。どちらかというと山間部よりも低地で多く見られる。

特徴

雌雄異株の多年草で, 地下には長いほふく茎があり株分けで増える。直立し, 草高は50~100cmに達し, 節はやや膨らみ赤みを帯びる。葉の鞘は1.5cmほどで, 縁に8~15mmの長い毛が生える。8月から10月ごろにかけて枝先の花序に多数の5弁花をつける。1枚の花びらの大きさは, 3~5mmほど。種子は黒色で光沢がある。



水田の畦に咲くシロバナサクラタデ



シロバナサクラタデの花



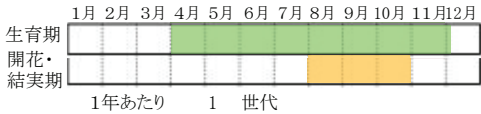
サクラタデ

名前の由来: 同様に水辺に生育する別種のサクラタデ(花は赤みを帯びる)に似て, 白色の花をつけることから。また, 別名はいずれもタデ類の中でも花が大きく, 美しいことから。

<農業との関係>

田の畦にもよく見られ, 夏から秋にかけて畦を彩る花としてよく目立つ。地下茎が横走りやや広い範囲に群落を形成することがあり, 湿った休耕田では大きな群落が見られる。しかし, 耕起には弱く, 水田内に侵入することはほとんどない。水路内の大群落はときに通水障害を招くことがある。

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> サクラタデは, 花びらの大きさが5~6mmとシロバナサクラタデよりやや大きく, 赤みを帯びる。また, 葉の鞘はやや短い。種子は黒色だが, 光沢はない。シロバナサクラタデよりも見かけることは少ない。

<一言うんち>

かつてはサクラタデとともに茶花としてよく利用され, また畦畔等に生えていると観賞用に刈り残されている風景もよく見られました。しかし, 現在ではシロバナサクラタデの清楚な美しさを顧みる人々も少なくなり, 農村の中で埋もれてしまっている野草のひとつです。

<人との関わり合い>

清楚な美しさから茶花として利用されているが, その他の利用についてはあまり情報がない。食用や薬としての薬効の記録もないため, 栽培されることも少ないようである。その美しさから, もっと注目してほしい草花である。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 夏, 秋(花) ※サクラタデ含む】

さくら蓼咲いてあるなり野の仏 (坪根峯子)

桜蓼さしうつむきて媚びにけり (富安風生)

少年はそこが秘密の場所なりき地藏堂うらサクラタデ咲く (鳥海昭子)

記事・タイトル		
梅雨の花ツユクサ	……	7
水辺を彩る濃緑の葉と黄色の花 - コウホネ -	……	8
炎天下の畑地でもたくましく生きる - スベリヒユ -	……	9
武家の家紋となった田んぼの雑草 - オモダカ -	……	10
幼き日のママゴト遊びの懐かしい草 - イヌタデ -	……	11
皮をむかれた因幡の白兎を癒した - ガマ -	……	12
アメリカからやってきた要注意な植物メリケンカルカヤ	……	13
寒い時期から小さな可憐な花をつける - ノミノフスマ -	……	14
早春の野辺を彩るコバルトブルー - オオイヌノフグリ -	……	15
田んぼや水路につやのある葉を拓げる - タガラシ -	……	16
春の風物詩であるツクシの正体は ~スギナ~	……	17
春の陽を浴びて金色にきらめく野辺の花 ~ウマノアシガタ~	……	18
日陰に見られる独特のにおいを持つ菓草 ~ドクダミ~	……	19
春の七草で知られるこの草の花を知っていますか ~セリ~	……	20
空き屋や休耕田を覆い尽くすほど旺盛に生育するこの草の正体は ~カナムグラ~	……	21
夏から秋にかけて田の畦や水辺に揺れる清楚な花の正体は ~シロバナサクラタデ~	……	22
刈田に見られる柔らかく海草のような草の正体は ~ミズワラビ~	……	23
秋の野辺でいつの間にか衣服にくっついているあの実の正体は -ヒナタイノコヅチ-	……	24
晩秋の野辺にたたずむ孤高の草姿 -ワレモコウ-	……	25
面白い名前の草花たち(その1) - タコノアシ -	……	26
一番身近な"春の七草"は効能たっぷり -ナズナ-	……	27
ヨーロッパからやってきた早春の日だまりに咲く可愛い花- オランダミミナグサ -	……	28
幼き頃かじったあの懐かしい酸っぱい茎の正体は -スイバ-	……	29
遠い昔、ムギとともに渡ってきた馴染みの春の七草 ~コハコベ~	……	30
暑さの到来とともに藪の中に咲く八重咲きは憂いを忘れさせる花 ~ヤブカンゾウ~	……	31
古くから繊維が利用されてきた身近な有用植物 ~カラムシ~	……	32
夏の水辺に揺れる特徴的な葉のあの植物は救荒植物 ~ミゾソバ~	……	33
うだるような暑さの中でも旺盛に繁殖するたくましい雑草 ~カタバミ~	……	34
野菜や杖にも利用される多機能雑草 ~シロザ~	……	35
名月によく似合う 日本の秋の風物詩 ~ススキ~	……	36
大正期にアメリカからやってきた二本角の「ひつつきむし」 ~アメリカセンダングサ~	……	37
面白い名前の草花たち(その2) ~カズノコグサ~	……	38
わき水由来の水路では真冬でも青々と群生する ~ミズハコベ~	……	39

目次

記事・タイトル	
稲作の準備時期を告げる、農事暦には欠かせない田の草～タネツケバナ～	40
春の野辺を彩る菜の花畑 明治初期に導入された多機能作物～セイヨウアブラナ～	41
林縁に目立つ黄色い花は毒にも薬にもなる草の王様?～クサノオウ～	42
種子はできないですが、子は増やせます～コモチマンネングサ～	43
涼しげに清流の水面に揺れる可憐な水草は、気むずかし屋です～バイカモ～	44
有名な民間薬で効果がたちどころに現れる? ゲンノショウコ	45
かつて利用価値の高い馴染みの草でしたが、最近は嫌われるものに?～クズ～	46
この大型の猫じゃらしは、アメリカ帰りのすごい奴?～アキノエノコログサ～	47
微妙な“辛さ”がクセになる? 芥子(からし)より辛くない～イヌガラシ～	48
「ひっつきむし」としてよく知られるこの草は大発明を産み出した?～オオオナモミ～	49
全草が白い綿毛に包まれて暖かそうな春の七草のひとつ～ハハコグサ～	50
野辺に最も身近なスマレの花には春空がよく似合う～タチツボスマレ～	51
人気の園芸植物、ゲラニウムの仲間はずり足元にも見られます～アメリカワロウ～	52
最も身近なランの花はぐるぐる回る?芝地の気まぐれな雑草～ネジバナ～	53
和洋ともに美人花と称されたこの花の正体は肉食系?～ヒルガオ～	54
在来の睡蓮(スイレン)は小ぶりで清楚な白花を咲かせます～ヒツジグサ～	55
地味だけど畑や道ばたで、暑い中でも咲いています～ザクロソウ～	56
庭先などあなたの身近な雑草の定番は、ワールドワイドにも展開しています～メヒシバ～	57
紫蘇という名前がついていても食べられない晩秋の野辺の可愛らしい花～ヒメジソ～	58
晩秋の野辺にはかなげに揺れるあの花は淡い恋を想わせる?～カントウヨメナ～	59
冬の寒さに負けず庭先で艶っぽい花を咲かせています～ツワブキ～	60
春の里山を代表し歌謡曲にも登場する白い妖精～ニンソウ～	61
ちょっと怖そうな名前ですが、安心して下さい、噛みつきません～ヘビイチゴ～	62
草むらでよく見かけるこの草で勲章つくった思い出は?～ヤエムグラ～	63
クローバーの仲間は土を肥やして幸せ運ぶ!?～ムラサキツメクサ～	64
あれ、田んぼに合飲の木が!?いえいえ、それは「恥ずかしがりや」の～クサネム～です。	65
夏の夜の怪談話 動物を食べる水生食虫植物の正体とは?～イヌタヌキモ～	66
弘法大師も愛飲していた! 古くから知られている健康茶の一つ～カワラケツメイ～	67
花粉症の元凶として濡れ衣を着せられたスーパーな外来植物～セイタカアワダチソウ～	68
秋の半自然草地に揺れる釣り鐘のような花はあの山菜!?～ツリガネニンジン～	69
冬の花壇やお正月を彩るあの観賞植物は日本生まれ! ハボタン	70
春の草地に突如現れる可憐な青い妖精～フデリンドウ～	71
足下の黄色い花の葉陰には一足早い夏の果実が?～コナスビ～	72
小さな黄色い花をつけるクローバーの仲間～コマツツメクサ～	73

分布: 全国

カナムグラ (アサ科)

学名: *Humulus scandens* フムルス スカンデンス

金蔴 別名: オームグラ, ネバリグサ, ムグラ

主な生育場所

全国の荒地や休耕地、堤防、林縁、路傍、樹園地、粗放管理の畦などに生育し、陽当たりの良い場所によく見られる。窒素が多い環境を好み、堆肥置き場周辺など、富栄養化した土壌でよく繁殖する。

特徴

1年生の蔓(つる)植物で、雌雄異株である。茎は3m以上伸びることもあり、茎の断面は四角で、葉柄とともに下向きのトゲが密生する。葉は対生で、手のひら状に5～7裂し、表面は非常にざらつく。8～10月頃に雄株で茎の先に、15～25cmの円錐状に小花がつく。雌株では脇から葉花茎を伸ばし、穂状に固まって雌花をつける。



名前の由来: 「むぐら(蔴)」とは、方々に茂る雑草のこと、「カナ」とは、鉄のように茎が強いことを表し、トゲのある茎で何物にも巻き付いて駆除しにくい強靱な草ということで名付けられた。

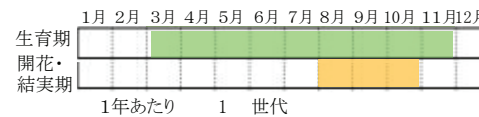
<農業との関係>

手入れのされない休耕地や草刈り回数が少ない畦や樹園地に出現する。また、富栄養の土地でよく繁殖することから、土壌肥沃度や管理頻度の指標になる。果樹園や畑などに侵入すると、肥料や水分の競合とともに、蔓によって作物や樹冠が覆われてしまい、光競合をおこす。また、茎のトゲは、刈り取り時の障害となるが、生育初期段階に刈り取ってやれば、繁殖することは少ない。



雄株の枝先についた雌花

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> 北海道と本州中部以北の山地には多年生の蔓植物カラハナソウが生じ、やはり茎にはトゲが多いが、葉はカナムグラのように深く切れ込まない。また、雌花をビールの苦み付けの原料とするホップ(セイヨウカラハナソウ)も近い仲間である。

<一言うんちく>

百人一首で詠われる「八重蔴 茂れる宿の 寂しきに 人こそ見えぬ 秋は来にけり」(恵慶法師)の「やえむぐら(八重蔴)」とはアカネ科のヤエムグラではなくカナムグラを指したものだと言われています。たしかにカナムグラなら、家を覆い隠すほど繁茂しても不思議ではありませんね。



<人との関わり合い>

ブタクサやヨモギと並び、秋の花粉症の主要な原因植物になっている。しかし、生薬名「蔴草(りつそう)」として薬草としても知られ、秋に全草を乾燥させたものを煎じて飲むと強壮、健胃、利尿などに効果があり、果実を煎じると健胃薬となる。また、腫れ物には、カナムグラを黒焼きにし食酢で練って患部に塗布すると良いとされる。食用にもなり、春から初夏にかけて柔らかいつる先を摘み、天ぷらにしたり、芝エビや小タマネギなどとかけ揚げにする。塩茹でし、卵とじ、バター炒め、ピーナツあえなどもいける。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 春(蔴若葉), 夏(金蔴)】

むぐらさへ若葉はやさし破(芭蕉)

陽炎のづんづんと伸る蔴哉 (一茶) 　いづこより月のさし居る蔴哉 (前田普羅)

いかならむ時にか妹をむぐら生のきたなき屋戸に入りませぬむ (万葉集・大伴田村大嬢)

目次

分布: 全国

セリ (セリ科)

学名: *Oenanthe javanica*

芹 別名: ミズゼリ, カワクタ, カワゼリ, シェリコ, セイリ, シェリッパ, シェリ, セル

主な生育場所

全国の水田, 水田畦畔, 休耕田, 水路や溝, 湿地など水辺に普通に生育する。水田内では畦際に多い。清流から富栄養化が進んだ水域まで生育可能。また、畑地でも水やりを欠かさなければ栽培可。

特徴

無毛の茎は枝分かれして根元は地面を這うが、茎の先は立ち上がる。細長い繁殖茎を出して繁殖し、秋にはふく茎の節から新苗を生じる。3小葉が1~2回羽状につく複葉は互生し、葉柄の基部は茎を抱く。7~8月ごろに茎の先から直立する花茎を伸ばし、10~25花をつけた花序を集めて傘状の花序となる。花は小さく白色5弁。



いくつかの小花序を集めた傘状の花



早春から競い合うように新芽を伸ばすセリ



ドクゼリは株元の地下茎が太くタケノコ状となるのが特徴

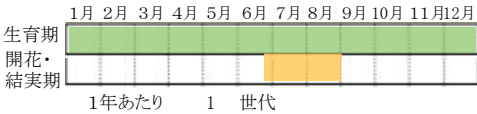
名前の由来:

早春から若菜が競り合うように地下茎を四方八方に伸ばし旺盛に生育し、大きな群落をつくることから「競り(せり)」。

<農業との関係>

普通に見られる水田雑草であり、ときに強害雑草となる。水田内では通常、種子繁殖はせず、栄養繁殖で増殖する。越冬株は乾燥に弱く、冬期に耕うんを行い土壌表面に露出させると死滅する。また、浅水状態で代掻きすると、越冬株が土中に埋設され再生が著しく阻害されるが、通常の水深では水中に浮遊してしまい、活着後の生育量が大きくなるので多発地帯では注意が必要である。

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> とくに寒冷地では猛毒のドクゼリがセリと同じような生育環境下に見られる。ドクゼリはセリによく似るが、大型で、セリと異なり太くタケノコ状となる地下茎を有する。また、セリ独特の香りもないため、注意すれば見分けることは比較的容易である。

<一言うんちく>

春の七草にも数えられているセリは、早春から摘むことができる若菜として馴染み深く、日本原産の最古の香味野菜として万葉の時代以前から栽培されてきました。現在、雑草として田んぼ周辺で見られるセリも、かつては栽培されていたものかも知れませんね。

<人との関わり合い>

古来から食用に利用され、同一種ながら清流に生え、食に適するものを「水セリ」、水田のようにあまり水質がよくない環境に生育するものを「田セリ」と呼んで区別してきた。暖地ではほぼ周年摘み取ることができるが、早春には若い茎を根元から、秋には茎先の新しい葉を摘むのが良い。丁寧に洗って、サラダ、テンプレ、和え物、煮物、炒め物など用途は広い。秋田ではきりたんぼ鍋にも入れる。葉に含まれる精油には発汗作用があり、食欲を増進させる。また、乾燥させた葉を入浴剤とすると肩凝りに効く。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 春(芹), 夏(芹の花)】

鶏にやる田芹摘みにと来し我ぞ (高浜虚子) うすらひやわづかに咲る芹の花 (其角)
ますらをと思えるものを太刀はきてかにはの田居に芹ぞ摘みける (万葉集・薛妙観命婦)
余念なきさまには見ゆれ頼かむり母が芹つむきさらざの野や (若山牧水)

記事・タイトル

びりりと辛くはないけど、見向きもされずに消えていくのはイヤです ~サンショウモ~	74
とても乙女が口に出しては呼ぶことができないかわいそうな花 ~ヘクソカズラ~	75
毎年、この時期に現れ消えていくあの花は ~ヒガンバナ~	76
晩秋の山野に咲く黄色の小花は、まるでありがたい薬師さまのよう ~ヤクシソウ~	77
寒天を仰ぐ縁起のよい冬緑性のシダ ~フユノハナワラビ~	78
刈り田によく見られる小さなヒマワリのような花 ~タウコギ~	79
春のアゼを代表するタンポポによく似た刈り取りに強い草 ~オオジシバリ~	80
水辺で良くみかける黄色いアヤメの正体は競合力の強いインベーダー ~キショウブ~	81
手入れが行き届かないと、貧乏神のようなこの草に襲われるゾ!? ~ヤブガラシ~	82
最近では水田の中も「欧米か!」が進んでいるんです~アメリカアゼナ~	83
残暑の中、このピンク色の花穂が目立ち始めると、秋の気配を感じさせます ~ツルボ~	84
人生いろいろ、好みもいろいろ、蓼(たで)食う虫も好き好き、の蓼とは? ~ヤナギタデ~	85
秋も深まる中、大豆のご先祖さまを見つけてみよう ~ツルマメ~	86
この季節、道端でよく見かける熱帯からやってきた「ひつつきむし」 ~コセンダングサ~	87
来年は心清らかに過ごせますように お正月の縁起物 ~ウラジロ~	88
春の風薫るころ、野良をピンク色に染め上げる中国由来の花 ゲンゲ	89
田んぼに浮かぶコケだけど虚仮にしないでね! ~イチョウウキゴケ~	90
初夏から梅雨時にかけて里山にみられる万葉歌人も好んだ白い花 ~ウツギ~	91
とっても大きそうな名前ですが、実際は地べたに伸びる小さな草花です ~コニシキソウ~	92
刈り田の宝もの探しにはうってつけの小さな絶滅危惧種 ミズマツバ	93
秋の野辺によく目立つあの花はサラダ菜の仲間なんです ~アキノノゲシ~	94
秋耕後の田んぼで見かける"黒い芋"の正体は ~クログワイ~	95
道ばたでみかける試験管ブラシのような穂の草は? ~チカラシバ~	96
今年最後に紹介する草花は"善良で陽気"な外来種 ~ウラジロチコグサ~	97
邪気を払う? 田んぼで最も馴染みのあの草の名の由来は.....コナギ	98
明智光秀の家紋で有名なあの草は、咳止めにも魔除けにもなる? ~キキョウ~	99
楊貴妃が愛し、あの名著にも登場する赤い実は不老長寿の薬 ~クコ~	100
中国最古の薬物書にも登場し、今でも日常的に飲用するスーパー健康食品 ~チャノキ~	101
ガーデニングなどでお馴染みのあの草は咳止めの薬草だった ~リュウノヒゲ~	102
難を転じて福となす 来年度は人々が集い談笑し合える年になりますように ~ナンテン~	103
タンポポの変異? いえいえ、そっくりだけど別種の外来種です~ブタナ~	104
夜の路傍で月を見上げているあの草は? ~コマツヨイグサ~	105
この草の上なら転んで擦り傷をこさえても血が止まる!? ~チドメグサ~	106
藪の中でひっそりと咲く花の「隠された心」とは~ヤブラン~	107

目次

記事・タイトル		
古池に浮かぶ小判のような水草はなんともつかみどころがない? ~ジュンサイ~	108
刈跡や畦畔で秋風に揺れる小さなトウガラシ? ~アゼトウガラシ~	109
お灸や草もち、薬用に大活躍。身近な有用植物 ~ヨモギ~	110
いつの間にか衣服に貼り付いているまるで盗人のようなあの草は? ~ヌスビトハギ~	111
寒風のなか、ひたむきに咲く冬の花 ~サザンカ~	112
緑風に揺れるあの可愛いヒナゲシの花は、危険な侵略種 ~ナガミヒナゲシ~	113
直立した茎に鈴なりに特徴的な果実をつけるおなじみの草には、いつのまにか仲間がいっぱい? ~ギンギシ~	114
初夏の木陰で咲く花は雪のごとし~ユキノシタ~	115

分布：北海道南部以南

ドクダミ (ドクダミ科)

ホツタイニア コルダータ
学名: *Houttuynia cordata*

毒痛み 別名：ジューヤク(十薬), 便所草, 白雪姫, 地獄蕎麦

主な生育場所

日陰や半日陰の路傍や田畑の畦畔、畑、樹園地、休耕田、庭先、林縁、林床、そして水路沿いなどに生育する。やや湿りがちな環境に多い。また、わざわざ栽植する場合もあり、人家近くによく見かける。

特徴

白い根茎が長く伸び、しばしば群生する多年草。全体無毛で、独特の臭気がある。茎は紅紫色。葉は暗い緑色で、ハート型で先がとがる。5~7月ごろ、茎の先に花穂をつける。4枚の白花弁のように見えるのは、葉が変化した総苞(そうほう)で、実際の花は淡緑色の円柱形であり、小花が集まった集合花である。



名前の由来：全草に臭気があり、有毒のように思われたことから「毒溜め」「毒痛み」と呼ばれ、やがてドクダミと転化した。また、多くの薬効があるため、十薬(じゅうやく)と呼ばれる。

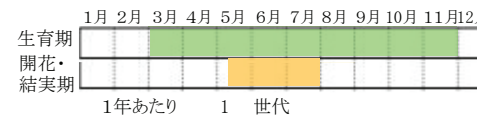
<農業との関係>

樹園地や畑地にも生え、根茎が長く伸びて繁殖力も旺盛なので、ときに害草として扱われることもある。一度、繁茂すると根絶することは難しい。一方、ドクダミの臭気には害虫の忌避効果もあるとされ、茎葉をマルチとして利用したり、全草の煮汁を土壌に撒くと線虫などに効果があるという。



半日陰に群生するドクダミ

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> ドクダミよりも湿気のある水辺に生え、やはり同様の臭気を有するハンゲショウ(半夏生)は陽当たりの良いところを好む。また、葉も細長く、花期には花のすぐ下に位置する葉の表面が白く変化する。

<一言うんちく>

ドクダミの独特の臭気の成分は、デカノイルアセトアルデヒドやラウリルアルデヒド - デカノイルアセトアルデヒドですが、いずれも火を通し高温に晒せば分解されます。そのため、テンブラやバター炒めなどにすると意外と美味しく食べることができます。



白い部分は葉が変化した総苞で、塔状に見えるのが集合花

<人との関わり合い>

ドクダミは古くから知られている民間薬で、アレルギー性鼻炎、喘息(ゼンソク)、腎臓病、膀胱炎、胃腸虚弱、腹痛、便秘、下痢止め、高血圧、神経痛、打ち身、皮膚病、水虫、あせも、湿疹、吹き出物、化膿止め、火傷(やけど)、解毒、洗眼、駆虫、風邪予防などに効果があるとされる。これらの薬効のため、天日で干したものを煎じたドクダミ茶としてもよく利用される。また、若い芽のテンブラのほか、茹でた後に水で晒し味噌とミリンで和えたり、地下茎も茹でて酢味噌で和えて食べる。

<俳句や短歌への登場>

【季語：夏】

どくだみの花と夏の鶯と白し (山口青邨) 十薬や四つの花びらよごれざる (池内友次郎)

どくだみの花のほひを思ふとき 青みて迫る君がまなざし (北原白秋)

その日までこすなほにわれありき 君と恐れしどくだみの花 (北原白秋)

分布: 全国

ウマノアシガタ (キンポウゲ科)

ラヌクルス ヤボニクス
学名: *Ranunculus japonicus*

馬の足形 別名: キンポウゲ(金鳳花), 駒の脚形, 癩(オコリ)落とし, 毛萇

主な生育場所

日当たりの良い林縁や路傍, 水田や畑の畦, 草地, ため池の堤防などにみられる。やや乾いた場所を好む。少し山がちな農地周辺に多くみられるが, 平地の水田や畑周辺では, あまり見かけない。

特徴

多年生植物で, 中空の茎が直立し, 高さ30~60cmほどになる。茎には白い毛が密生する。根出葉には長い柄があり, 掌状に切れ込む。茎の上部にいくほど葉は線形となり, 3裂片に深く切れ込む。花は径1.5~2cmの黄色の5弁花で, 花弁の表皮に光を反射する細胞層がある。種子には短いくちばしがあり, 集まって金平糖状となる。

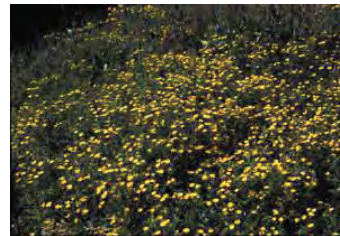
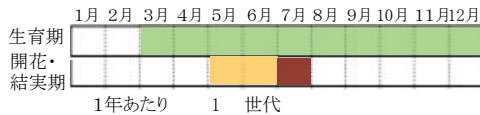


名前の由来: 3深裂する葉を馬の蹄(ひづめ)の形に見立てたという。また, 光を浴びて花びらが金色に輝くように見えることから, 金鳳花。

<農業との関係>

畦や水路沿い, 路傍などにみられるが, 水田内や畑内部に発生することはほとんどない。しかし, 有毒植物のため, 放牧地では害草となる。また, 家畜の飼料に混ざらないように注意する必要がある。家畜への中毒症状は, 口内の腫脹, 胃腸炎, 疝通, 下痢など。重症となると, 呼吸困難をきたし死に至ることもある。

<生活史> 関東地方の例(目安)



群生している様子

<類似種> 水田内や畦, 水路際など湿った場所には, 同属でやはり有毒植物のキツネノボタンやケツツネノボタンが生育するが, 花は小さく径1cmほど。また茎の上部の葉は線形とならないことなどで区別できる。

<一言うんちく>

馬のひづめに葉の形状が似ていることから, 「馬の足形」とされますが, とてもそのようには見えません。一説には, 「馬(カラス)」の字を「馬」と読み違えたのではないかとされています。確かに, 3深裂の葉は, カラスの足形としたほうが, しっくりときますね。



5弁花と果実(右下)

<人との関わり合い>

全草が有毒植物なので食用とはならない。しかし, 民間薬として, 生汁を米などに練り込み, リウマチや歯痛などの外用とすることもある。また, 中国ではマラリヤや頭痛の薬としても利用されているようだ。花が大型できれいなため, 観賞用として品種改良も行われ, 八重咲きのものを特にキンポウゲと呼ぶ。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 春】

田をうるうところに畦に黄の花の金鳳花など咲くふるさとは (佐藤佐太郎)
温かに洋傘(かさ)の尖もてうち散らす毛萇(きんぽうげ)こそ春はかなしき (北原白秋)
火薬庫へ径ひとすじに金鳳花 (堀内雄之)

分布: 全国

ツユクサ (ツユクサ科)

コンメリナ コンムニス
学名: *Commelina communis*

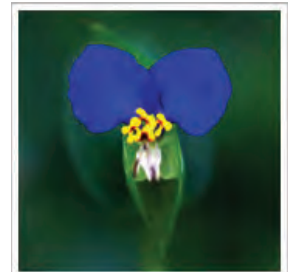
露草 別名: ぼうしばな, ほたるぐさ, とんぼぐさ, つき草, むらさきばな

主な生育場所

畑や水田畦畔, 路傍, 林縁などに生える。低地から高地まで普通にみられる。どちらかというとやや湿った場所を好む。また, 日当たりのよい場所に多いが, 日のあまり当たらない環境でも生育できる。

特徴

高さ30~70cmくらいとなり, 茎は柔らかく根もとから多く枝分かれし, 節から根を下ろして地面を這う。葉は長さ5~8cmほどで, 平行な葉脈がみられる。花は大きな花びら2枚と小さな花びら1枚とからなる青紫色で編み笠状の包葉に包まれる。長いおしべ2本, 中くらいのが1本, 短いのが3本の計6本のおしべがある。



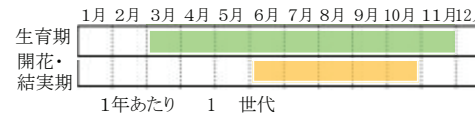
大きな花弁2枚と小さな花弁1枚からなる花

名前の由来: コバルトブルーの鮮やかな花は, 朝開いてその日の夕方には閉じてしまう短命さから「露草」。また, 編み笠状の包葉に花が包まれている様子から「帽子花」。

<農業との関係>

畑や果樹園では強害雑草となりうる。特に果樹園など耕起が少ない環境でびっしりと群生することがある。また, 陸稲(おかほ)田に発生すると, 稲の減収率が大きくなる。除草した植物体はそのまま土の上に置いておくと節から発根して再び根付いてしまうほど繁殖力は旺盛である。

<生活史> 関東地方の例(目安)



平行な脈で細長い卵形の葉

<類似種> 主に関東地方よりも南の暖かい地方には, ツユクサよりも葉の幅が広くて丸みを帯び, 緑が被打つ葉をつける外来種のマルバツユクサがよくみられる。また, 園芸種由来で常緑の白い花をつけるトキワツユクサがある。

<一言うんちく>

京都の伝統工芸品の1つである友禅染では, ツユクサの変種であるオオウシバナ(大型の花をつける)花弁から抽出した色素を和紙に染みこませ乾燥させた「青紙」を使って下絵が描かれる。その後, 本絵付けの後, 水洗いすると, ツユクサで描いた下絵はすぐ落ちてしまう。



暖地に多いマルバツユクサ

<人との関わり合い>

色素は水に溶けやすいので染料としては不向きだが, 染め物の下絵用として利用される。また, 若い葉や柔らかい茎先は食べることができ, 塩ひとつまみ入れた湯にくぐらせ, 水にさらして湯がいてお浸しやサラダにする。花付きの茎先は天ぷらにしてもよい。また, 生薬「鴨跖草(おうせきそう)」として, 全草は解熱, 解毒, 風邪, 利尿薬としても用いられる。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 秋】

百に千に人は言うともつき草の移ろうころ吾もためやも(万葉集・作者未詳) ※つき草=ツユクサ
つゆ草に袖すりませむ秋萩のひと花衣色深くとも(藤原基家)
露草も露のちからの花ひらく(飯田龍太)

分布：沖縄を除く全国

コウホネ (スイレン科)

学名: *Nuphar japonicum*

河骨 別名：川骨(せんこつ)、カワホネ、カワト、カワバス、たいこのぶち

主な生育場所

浅い池や沼、流れの穏やかな水路に生育する水生植物。明るい水辺に多く、底質が泥深い環境を好む。水質に関しては、比較的幅広い環境で生育可能だが、汚濁が進むと減退してしまう。

特徴

種子または根茎で繁殖する多年生。海草のアオサに似た水中葉と肉厚でつやがあり水面上に立ち上がる抽水葉をつけるが、やや円心状の浮葉が混じることもある。6月頃から秋にかけて、花茎を水面上に伸ばし、その先に直径4~6cmほどの濃黄色の花を咲かす。地中には太く長い地下茎を発達させ、節からひげ根を出す。



名前の由来： 泥中に長く縦横に這う根茎は、肥大して全体に白味を帯び、葉の跡が目立つため、ごつごつとした背骨を連想させ、「かわほね(河骨)」と呼ばれたことによる。

<農業との関係>

ため池や土水路などで、ときに大きな群落となり、取水や通水を阻害することがあり、また地下茎もよく発達し、その除去も困難なことから、害草として扱われる。しかし、光沢の強い葉や可憐な花は、観賞用としてもはやされ、庭先の池などで栽培されることも多い。コウホネやその近縁種は、水辺の改変や水質汚濁によって、全国的に少なくなっており、共存する知恵が必要である。

<生活史> 関東地方の例(目安)



落水後のため池で露出した地下茎

<類似種>

全体に小型で浮葉と沈水葉のみで抽水葉をつけないヒメコウホネ、葉柄が中空で西日本に分布するオグラコウホネなどがある。

<一言うんちく>

世界に20種ほど知られているコウホネの仲間ですが、抽水葉や浮葉をつけずに水中葉だけのコウホネが2006年に栃木県の用水路から発見され、新種シモツケコウホネ(下野河骨)として登録されました。この貴重なコウホネは、地域の財産として地元の方々に大事に守られ管理されています。



水路を埋め尽くして繁茂するコウホネ群落

<人との関わり合い>

観賞用として栽培されるほか、食用・薬用としても利用されている。レンコンを利用するハスに対し、「ヤマバス」とも呼ばれ、掘り上げた根茎をよく洗い、薄く切って熱湯でよく茹で、その後一晩流水中に晒すと、土の香りがほどよくなかなかの珍味となる。天ぷらや煮物、油炒めなどにする。沈水葉も同様にして食べることができる。

また、根茎は川骨(センコツ)と呼ばれる生薬であり、利尿や強壮、腫れ物などに効くとされる。

<俳句や短歌への登場>

【季語：夏】

小鮒取る童へ去りて門川の河骨の花に目高群れつつ(正岡子規)

河骨の花に添ひ浮くいもりかな(高浜虚子)

分布：全国

スギナ (トクサ科)

学名: *Equisetum arvense*

杉菜 別名：ツギツギ、ツギナ、ツクシ、ツギマツ、ホタルグサ、ボンボングサ など

主な生育場所

畑や果樹園、田畑の畦、路傍、庭先、休耕地、土手、法面の草地など、乾いた場所からやや湿った場所まで里地の至るところに生える。時折冠水するような場所でも生育可能である。

特徴

地中に長い地下茎を伸ばして繁殖する多年生のシダ植物。地上茎には栄養茎と孢子茎(ツクシ)とがある。春先にまず孢子茎が伸び、先端に孢子嚢穂をつけ、孢子を散布後、すぐ枯れてしまう。栄養茎は高さ30~60cmほどになり、上部の節に多数の枝が輪生する。栄養茎も秋遅くには枯れてしまい、地下茎で越冬する。

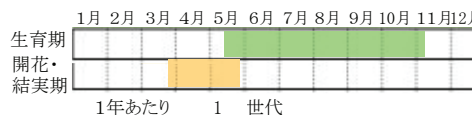


名前の由来： 栄養茎がスギの葉のように見えたことからスギナ。また、別名のツギツギとは、節のどこから抜いて継ぎ足しできることから。ツクシはスギナの地下茎とつながっていることから「付く子」。

<農業との関係>

地下茎は各節から数本の根を出しながら深さ30~1m、長さ2~5mに達し、生活力が非常に強い。除草剤も効きにくく、畑に侵入すると強害雑草となる。肥沃地ほどよく生育し、中性からアルカリ性土壌を好むが、酸性土壌でも生育可能である。除草剤による管理を行っている畦畔においても、駆除しにくいために優占しやすく、耕地内外を問わず、はびこると根絶することが難しい雑草である。

<生活史> 関東地方の例(目安)



孢子茎(ツクシ)

<類似種> 水辺に生育する同属のトクサは、茎が太く草高も1m近くとなる大型の草である。また陽当たりのよい湿地に生育するイヌスギナは、スギナによく似るが、やや大型で栄養茎と孢子茎の区別はなく、栄養茎の先に孢子嚢穂を付ける。

<一言うんちく>

シダの仲間は最も古くから地球上で繁栄してきた植物ですが、その中でもトクサ科は約3億年前から見られました。スギナは、その頃から今まで絶滅せずにずっと残ってきた植物であり、だからこそ農地に入り込むと防除が厄介となるほどたくましいのです。



<人との関わり合い>

ツクシは早春の風物詩として、古来から親しまれ、また食材としても利用されてきた。この食材としてのツクシを摘む様子も、多く和歌や俳句などに詠まれてきた。ツクシの食べ方としては、和え物や天ぷらなどがある。また、栄養茎も若芽は佃煮などの食用となり、全草を天日で乾かしたものは生薬「問荆(もんけい)」と呼ばれ、煎じたものはスギナ茶として利尿、腎炎などに薬効がある。栄養茎には珥酸も多く含まれるため、歯磨きにも利用されることがある。

<俳句や短歌への登場>

【季語：春】

つくづくし摘みて帰りぬ煮てや食はんひしほと酔とにひでてや食はん(正岡子規)

畠打や子が這ひ歩くつくし原(小林一茶)

ゆららかや杉菜の中に日は落つれ(芥川龍之介)

分布: 全国

タガラン (キンポウゲ科)

ラヌクルス スケレラツス
学名: *Ranunculus sceleratus*

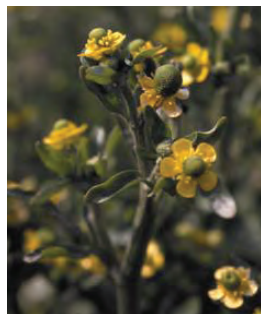
田芥子 別名: コンペートー, ウシゼリ, タゼリ, タネツケバナ

主な生育場所

春耕前の湿田や畦, 湿っぽい休耕田, また排水路や絶えず水の流れる用水路, ため池の縁などの水田周辺の陽当たりのよい水辺に生育する。富栄養の環境を好む。街中の水路で見かけることもある。

特徴

収穫後の水田で芽生え, 根出葉で越冬し, 翌春に花を咲かす越年生。根出葉は下部の葉は光沢があり, 掌状に切れ込むが, 茎の上部の葉は3深裂で幅はせまい。茎は中空で柔らかく直立する。葉腋から花茎を伸ばし, 光沢のある黄色の5弁花をつける。花後, 長楕円形の果実(集合体)が目立ち, 個々の種子には短い嘴がある。

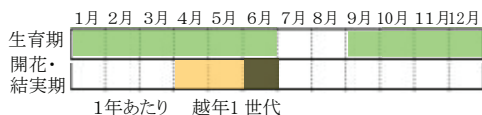


名前の由来: 水田に見られ, 嗜むと辛みがあるので, 「田芥子」との説と, 収量の少ない湿田に多いことから「田枯らし」との両説がある。別名のコンペートーは, 果実が金平糖を想起させることから。

<農業との関係>

ムギなどの冬作を行わない水田, とくに冬から春にかけて湛水状態となるような湿田では, 全面に繁茂し, 春耕や代掻きの障害となることがある。かつては, 山間部の貧栄養の湿田に多かったが, 最近では平野部の富栄養～中栄養の水質下に多くみられるようになった。冬作時にも, 水はけの悪い部分に多発することがあり, 強害草となる。本田期間中にも残る個体が見られるが, 障害とはならない。

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> 関東以西のやや乾いた湿地には, 絶滅危惧種のヒキノカサが生えるが, 葉に光沢がなく茎に毛が多い。また, タガランと同様の環境に見られるキツネノボタンも, 葉に光沢がなく, 集合果は球形で種子の先の嘴(くちばし)は長く曲がる。

<一言うんちく>

全草にプロトアネモニンというキンポウゲの仲間と共通する有毒物質を含みますが, 中国やインドでは, ヘビに咬まれたときの薬として利用されることもあるようです。

<人との関わり合い>

有毒成分を含む毒植物で, 食べると口内炎や胃腸炎を起こす。また, 肌の弱い人では, 葉や茎の汁が皮膚に付着するとかぶれを起こすことがある。しかし, インドなどでは, 薬用として葉や果実などを利尿や強壮剤に利用する。また, 便槽などのウジ虫の退治にも遣われることがあるようだ。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 春】

田芥子や山の窪地に家二軒 (塩崎環恵)



花茎を伸ばし始める春先



根生葉のみのロゼット状態

分布: 全国

スベリヒユ (スベリヒユ科)

ポルチュラッカ オレラケア
学名: *Portulaca oleracea*

滑り草 別名: ヒョウ, ヒョウナ, ウマビユ, アカジシヤ

主な生育場所

畦や空き地, 庭先, 道ばたなどで見られる。よく陽の当たる乾いた場所を好み, 湿っぽい畦などには少ない。また, 肥えた土壌でよく生育するが, 極端な高窒素の環境下では生長が抑制されてしまう。

特徴

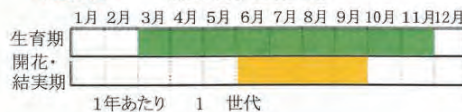
種子で繁殖する一年草。全体が多肉質で, 肉質の丸みを帯びた葉には光沢がある。茎は赤紫色を帯びて四方八方に枝分かれして地面を這う。7月頃から秋にかけて, 各枝先に径1cm弱ほどの黄色い5弁花を1~5個着ける。果実はフタのあるカップ状で, 熟すと帽子状のフタが外れ, 残された皿に多数の黒い種子が乗る。

名前の由来: 昔から食用とされ, 茹でて食べると野菜の「ヒユ」(アマランサスの仲間)に似ているが, ヒユよりも粘り気が強いことから, 「ぬめりひゆ」。これが転じて「スベリヒユ」となったという。

<農業との関係>

乾燥耐性があるため, 炎天下でもよく目立ち, 抜いてもすぐ枯れにくく再活着しやすいことから, 一般的には畑の強害草として知られている。しかし, 密生することは少なく, また根系は浅く競合範囲も限られることから, 作物との養分競合や水分競合に対しては, 多分に過大評価である。他の雑草が枯れ込むほどの酷暑下でも生育できるたくましが害草としてのイメージを高めてしまっているのだろう。

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> ハナスベリヒユ(ポーチュラッカ)は, 2~3cmほどの様々な色の花を咲かす多年草の園芸種である。また, 葉が扁平な棒状となるマンパボタン(松葉牡丹)やヒメマンパボタン(姫松葉牡丹)もスベリヒユと同属の園芸種である。

<一言うんちく>

スベリヒユは, 気温が低下する夜間に気孔を開いて二酸化炭素を貯蔵しておき, 昼間は気孔を開かず日光合成する植物(CAM植物)なので, より気温が高く乾燥した場所にも適応できます。このため, 他の植物が生育できない(=競争相手がいない)環境下に侵出できるのです。

<人との関わり合い>

山形県置賜地方では, 「ひょう」「ひょうな」として, 店先で販売されるなど「山菜」として扱われている。開花前に摘んでおひたしにしたり, みそ和えなどにするとねばりけがあって美味しい。また, 乾燥して保存食とする。

生薬名「馬齒莧(ばしけん)」としても知られ, タンニン, ビタミンC, B1や多くのミネラルを含むので, 乾燥したものを煎じて服用すれば, 利尿, 解毒などに効果がある。また, 生の葉の絞り汁は, いぼ取り, 虫さされ, 湿疹によいとされる。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 夏】

釣るされて一期しまひぬ(すべ)り草

月落ちてこよひの名也馬齒莧(沽圃) ※馬齒莧=スベリヒユ

入道道の大家が原のいはらむ蔓ひかばぬるる吾にな絶えそね(万葉集・作者未詳) ※いはらむづら=スベリヒユ



スベリヒユの花



マルチの隙間から生育するスベリヒユ



乾燥した土壌でもよく生育する

分布: 全国

オモダカ (オモダカ科)

サギタリア トリフォリア
学名: *Sagittaria trifolia*

面高, 沢瀉 別名: ハナグワイ, イモグサ, クチアケ, クワイ, イモゴグサ, クワラソ

主な生育場所

水田やため池, 湿地など流れのない水辺に生育し, 流水中には見かけない。最も多く見られるのは水田や休耕田である。また, 水深に対する適応性も高く, 50cm程度の水深でも生育可能である。

特徴

種子と地下に産する塊茎によって繁殖する多年生。根元から伸びた長い柄の先に基部が左右に深く裂けるヤジリ型の葉を展開する。葉の幅は, 細いものから, 太いものまで変異が大きい。8月頃から花茎を伸ばし, 径約1cmほどの白い3弁花を輪生する。また平行して, 株の基部から地下茎をだし, その先端に塊茎を形成する。



イネ株の間で花をつけるオモダカ

名前の由来: ヤジリ型の葉の形や葉脈の模様を, 人の顔(面)に見立て, 長い葉柄を持った葉が水面上から高くでていることから「面高」。また, 沢の水が流れ出る「瀉」に生えていたことから。

<農業との関係>

オモダカは塊茎形成とともに種子繁殖も行うため, 厄介な水田雑草として扱われる。窒素吸収量が大きく, 発生密度が高いと30%以上の水稻の減収をもたらすこともある。しかし, 田植え後20~30日後以降に発生した個体は, 水稻によって生育が抑制される。また, 早期栽培では稲刈り後にも旺盛に塊茎を形成し, 次年度以降の発生の拡大を助長してしまう。



特徴のあるヤジリ型の葉を展開

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> オモダカ同様にヤジリ型の葉を伸ばす同属の絶滅危惧種アギナシも湿地やまれに水田に生育するが, オモダカのように地下茎を伸ばさず, 株元に球状のむかごを形成すること, ヤジリ型の葉先が尖らずに点頭状になることが, 区別点となる。

<一言うんちく>

オモダカの群生している様子は, ヤジリ型の葉から弓矢を立て並べたように見えたり, 楯にも見えることから, 尚武の「勝ち草」とか「將軍草」などと呼ばれる縁起の良い水草として, 古来から武人の家紋として採用されてきました。毛刺家の抱沢瀉(だきおもだか)などが有名です。



アギナシのむかご

<人との関わり合い>

正月に食するクワイ(慈姑)は, オモダカを由来とする中国からの改良変種で, 径3~5cmの塊茎をつける。京都山城地方から大阪摂津地方にかけては, 野生のオモダカを栽培して「吹田ぐわい」として, クワイと同様に塊茎を食用に利用している。オモダカの若葉も茹でて水にさらすと多少苦みがあるが食べられる。

また, 乾燥させた塊茎には, 利尿効果や鎮痛作用があり, めまい, 耳鳴り, 頭痛などにも効くとされる。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 夏】

村雨のふる江をよそに飛ぶ鷺のあとまで白きおもだかの花(草根集)

おもだかに寄る漣や余興の湖(うみ) (内藤恵子) 沢瀉の花にくはへの銚子哉(嵐雪)

風わたる水のおもだか影見えて山さはがくれとどふほたるかな(香川景樹)

分布: 全国

オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科)

ヴェロニカ ペルシカ
学名: *Veronica persica*

大犬の陰囊 別名: 天人唐草, 瑠璃唐草, ひょうたん草, 星の瞳

主な生育場所

田畑の畦から, 春耕前の水田, 畑地, 樹園地, 草地, 路傍, 空き地, 庭先, 山裾など, 里地のいたるところで見られる。陽当たりが良く, やや乾いた場所を好むが, 生育適応範囲は広い。

特徴

明治初年に渡来したヨーロッパ原産の越年草。茎は細く有毛で, 根元から分枝し地を這って広がる。高さは10~30cmほど。下部の葉は対生だが, 茎の上部につく葉は互生する。早春から初夏にかけて葉腋から2~3cmほどの柄を伸ばし, その先にコバルトブルーの径1cmほどの4弁花をつける。一部の花弁が白っぽくなることもある。



名前の由来: ハート型の果実の形状が, 犬の「陰囊(ふぐり)」を連想させたため。別名のひょうたん草も同様。天人唐草や瑠璃唐草は, コバルトブルーの花の色から。唐草は帰化種を表した。

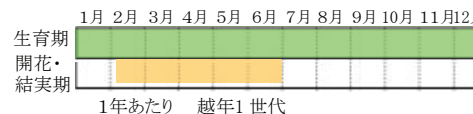
<農業との関係>

田畑の畦に生育するものは, 野辺の彩りとなり作業の邪魔とはならない。また, 湛水条件下では発芽せず, また夏期は種子で過ごすため, 水田期間中に生育することはない。しかし, ムギ畑や樹園地, 畑地内で一面に繁茂すると, 地温の低下や水分競合などを引き起こす害草となる。



花弁の一部が白みがかった花とハート型の果実

<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> 同じ外来種のタチイヌノフグリの花は, 径3mmほどと小さく, 茎は直立する。在来種のイヌノフグリは, 現在, 絶滅危惧種に指定されるほど少なくなっている。その花は, オオイヌノフグリより一回り小さい淡い紅紫色で, 果実の膨らみは厚い。

<一言うんちく>

鮮やかなコバルトブルーの花は早朝から開花しますが, その日の夕方には散ってしまうほど短命です。また, 開花してしばらく経つと, 軽く花びらに触れたり, 風にあおられたりするだけでも, 簡単に落ちてしまいます。可憐な花は, 実に繊細にできているようです。



直立し, 花の小さいタチイヌノフグリ

<人との関わり合い>

その名前を知らなくても, 早春の野辺を彩るこのコバルトブルーの花に見覚えのある人は多い。オオイヌノフグリは日本に伝わってからわずか150年ほどの間に全国各地に広がり, 今やシロツメクサなどと並んですっかり, 日本の里地植生になじんでしまった。しかし, 文化的には, まだまだ付き合いが浅いようで, 食用や薬用などの記録はほとんどない。

<俳句や短歌への登場>

【春】いぬふぐり空を仰げば雲もなし(高浜虚子)

※当時すでに, オオイヌノフグリは各地に広まりつつあったが, この句のなかの「イヌノフグリ」が本種オオイヌノフグリを示しているのか, 在来のイヌノフグリを示しているのかは定かではない。

分布: 全国

ミノフスマ (ナデシコ科)

ステルラリア アルシネ
学名: *Stellaria uliginosa*

var. ウンゾラータ
undulata

蚤の衾 別名: コゴケグサ, 天蓬草, 雀舌草

主な生育場所

田植え前の水田や田の畦, 休耕田, 畑など, やや湿った田畑やその周辺で多くみられる。ときに, 非灌漑期の排水路や用水路の縁に生育することもある。また, 庭先で見かけることもある。

特徴

高さ10~30cmほどの小型の植物。越年草とされているが, 夏が涼しく積雪の少ない地域では, ほぼ通年で見られる。暖地では, 種子で夏を過ごし, 10月頃発芽してくる。葉は対生し, 茎は無毛で細く, よく分枝する。径4mmほどの白い花が枝先につき, 群生するとよく目立つ。また, 夏期には花びらをつけずに閉鎖花となることも多い。

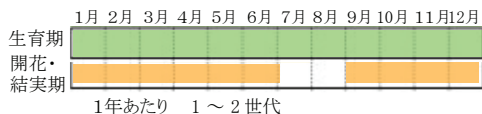


名前の由来: 対生する柔らかそうな葉を昔の夜具である衾(ふすま:現在の掛け布団のようなもの)にたとえ, 蚤が使うほど小さいとしたことから。

<農業との関係>

土壌水分に対する適応性が高く, 湛水~半乾燥までの広い水分域で出現するため, 耕地でよく見かける雑草である。発芽適温は15~25℃で, 5℃以下や30℃以上ではほとんど発芽しない。酸性から中性の肥沃な土壌を好み, 主に秋に発生し, 年内の生育量は少ないが, 早春からよく繁茂するため, 大発生するとムギ畑等で害草となる。

<生活史> 関東地方の例(目安)



群落の様子

<類似種> 道ばたやコンクリの隙間など乾いたところには, ミノツヅリ(蚤の綴り)がみられる。ミノフスマ同様に小型で対生の葉をつけるが, 全草に毛があり, 葉の色はミノフスマより濃い青緑色となり幅広で厚い。また, 花弁は分裂しない。

<一言うんちく>

ミノフスマやハコベなどでは10枝の花びらをつけているようにみえます。しかし, これは一つの花びらが深く二股に切れ込み2枝に数えられるため, 合計で10枝に見えているのです。花弁の基部をよく観察すると, 実際には5枝の花弁であることが確認できます。



基部で2裂する5枝の花弁

<人との関わり合い>

近縁のハコベは, 春の七草にも挙げられるほど食用として有名だが, ミノフスマには食用の記録がない。しかし, 中国では全草を風邪や痔の薬として用いることがあるようだ。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 晩春】

畑を打つ音して蚤の衾かな (浅野夫美子)

分布: 全国

イスタデ (タデ科)

ペルシカリア ロンギセタ
学名: *Persicaria longisetta*

犬蓼 別名: アカマンマ, 赤のまんま

主な生育場所

畑や果樹園, 田畑の畦, 耕作放棄地, 路傍, 庭先など, 身近な人里環境内で普通に見られる。水辺から日当たりのよい畑地まで生育環境は幅広いが, やや半日陰の湿った場所に群生することが多い。

特徴

夏から晩秋にかけて茎の先に紅紫色の小花を3~5cmほどの円柱状に密生させた花穂をつける一年草。高さ20~50cmほどで, よく分枝する。茎は紅紫色を帯びやすく, 晩秋になると全草が紅葉する。タデの仲間には葉の付け根に茎を抱くように筒状の「托葉(たこよう)」があるが, イスタデには托葉の縁に托葉と同長の長い毛が生える。



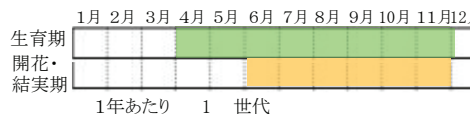
イスタデの花穂

名前の由来: タデの仲間には, 藍染めに利用する「アイ」や, 刺身のツマとした「ヤナギタデ」など, 役立つ種類が多い中, あまり利用価値のないタデとして, 蔑称の「イヌ」をつけて呼ばれたことから。

<農業との関係>

畑や樹園地の雑草となるが, 群生しても草高がさほど高くないため, 強草草にはなりにくいが, 近年, 飼料畑で問題化しているとの報告がある。水田内にも発生するが, 畦畔に多い。土中の種子は平均気温が7~10℃になると発生し, 発生の深さは1~3cm前後である。また, 春から秋まで発生期間は長い, 夏期の発生は少ない。土中の種子寿命は4年半後で10~30%との報告がある。

<生活史> 関東地方の例(目安)



群生するイスタデ

<類似種> ほぼ同様の環境下に生育し, イスタデに比べ, 50cm~1m以上と大型となるサナエタデやオオイスタデは, 葉の裏に白毛が目立ちやすく, 托葉の縁にはほとんど毛がない。またオオイスタデの花穂は太く長く, 下向きに垂れがちである。

<一言うんちく>

子どものママゴト遊びにしか役に立たないと思われているイスタデですが, 実際には若菜や花穂は天ぷらにして食べることができます。ただし, 味は可もなく不可もなくといったところでしょうか。ちなみにイスタデの花言葉は「あなたのお役に立ちたい」。何とないらしいことでしょう。



オオイスタデの花穂 (太く, 長く垂れ下がる)

<人との関わり合い>

野辺に普通に生える身近な草であり, 花穂をしごき落したものを赤飯に見立て, アカマンマとも呼ばれオママゴトの材料とした。また群生すると花穂や紅葉が非常に美しく, 秋の風情を感じさせることから, 古くから短歌や俳句などにも詠まれてきた。よく揉んだ生葉は, 皮膚病・虫さされなどに効くとされる。また, 全草を干して煎ずれば, 虫下しにも良いとされる。

<俳句や短歌への登場>

【季語: 秋】

犬蓼の花くふ馬や茶の煙 (正岡子規)

犬蓼の花さかりなる里川に夕日がれてあきつ飛ぶなり (落合直文)

わが屋戸の穂蓼ふるから採み生し実になるまでに君をし待たむ (万葉集・作者未詳)

分布：沖縄を除く全国

ガマ (ガマ科)

タイファ ラティフォリア
学名: *Typha latifolia*

蒲 別名：御簾草(みすぐさ)、かば、かま

主な生育場所

ため池や休耕地、湿地など流れのない水辺に生育する。水田に生えることもある。また、大量の種子が飛散するため、時に一時的な水たまりの跡やコンクリートの隙間などで生育することがある。

特徴

高さ2mにも達する大型の多年草で、種子と根茎によって繁殖する。円柱状の白くて柔らかい根茎は、泥中を這う。濃い緑で線形のねじれやすい葉は幅は2~4cm。夏期に葉間より堅い茎を伸ばし、直径2cm以上で円筒状の花穂をつける。花穂は熟すと赤褐色となり、やがて崩れて綿毛をつけた大量の種子が風によって飛散する。

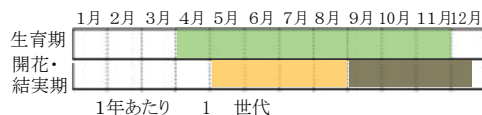


名前の由来：日本語の祖先にあたるアルタイ語系のヨシ(葦)を意味するkamaが、きわめて古い時代に「カマ」そして「ガマ」に転じた可能性があるという。(『日本語の起源』村山七郎から)

<農業との関係>

飛散した種子からの発芽直後は、耕起によって簡単に駆除できるが、いったん定着すると、地下茎を縦横に伸ばすため駆除が難しくなり、不耕起田に入り込むと厄介となる。また、湿っぽい休耕地で群生しやすく、復田に際してはヨシと同様に地下茎の除去に苦労することとなる。水深の浅いため池にもしばしば蔓延し、取水の障害となるため、定期的な刈り取りや泥上げ等が必要である。

<生活史> 関東地方の例(目安)



崩れて綿毛がむき出しになった熟した花穂

<類似種> 葉の幅が2cm以下と狭く、花穂の直径が2cm以下となるヒメガマも高さは2m以上に達し、ガマと混生することも多い。ヒメガマと同様に葉の幅が狭く、高さが1.5mほどにしかならないコガマは、西日本であまり見られない。

<一言うんちく>

ワニに赤むけにされた因幡の白兔が、通りがかった大黒様に教えられる。ガマの穂にくるまって傷を癒したと思われていますが、「古事記」の原文によると、大黒様が教えたのはガマの花粉(蒲黄)に身を置くことでした。ガマの花粉には切り傷ややけどに効果があるとされています。



葉幅が狭く花穂が細長いヒメガマ

<人との関わり合い>

ガマの穂綿はかつては、火口に利用されたり、布袋に入れて蒲団(布団)とした。また、花穂を干したものを蠟燭や松明の代用にもされた。さらに若葉は食用、穂黄は薬用、茎はむしろなどの編み物に利用されるなど古来から身近な有用植物としてさまざまに活用されてきた。また、練り製品の「蒲鉾(かまぼこ)」は、古く、竹の棒に自身魚のすり身を筒状に巻いて作られ、その形状がガマの穂に似ていることから名付けられた。ウナギもかつては開かずには開かずにして焼いていたことから「蒲焼き」とされた。

<俳句や短歌への登場>

【季語：夏】

蒲の穂や蟹を雇て折もせん (其角)

蒲の穂にひとひら白き冬の蝶ふと舞ひあがる夕空の晴 (北原白秋)

蒲の花目にめづらしく咲きたれば葦むら分けて舟曳かせけり (橋田東声)

分布：北海道を除く全国

刈ケンカルカヤ (イネ科)

アンドロポゴン ウィルギニクス
学名: *Andropogon virginicus*

米利堅刈萱 別名：特になし

主な生育場所

農村部から市街地にいる空き地、道ばた、芝生などの草地、水田の畦畔、休耕地、水路やため池の法面など、日当たりが良く乾燥した環境下に多く見られる。刈り取り場にも強いが湿地には少ない。

特徴

種子と根茎により繁殖する多年草。草丈は50-100cmとなり、叢生しやすいが、生長速度は極めて遅い。茎は扁平で、葉鞘にやや長い毛を散生する。9-10月頃に直立した穂を伸ばし、多数の穂をつける。長さ8mmほどの白い綿毛がついた種子は、風によって伝播する。晩秋から冬にかけて、全草が朱色に紅葉し、枯れ草も目立つ。

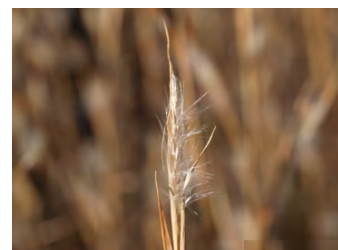


名前の由来：刈ケンとは、アメリカのことを表し、カルカヤとは屋根を葺くために「刈る茅」のこと。綿毛をつける在来のススキやメガルカヤなどに似ているが、アメリカからきた外来植物を示している。

<農業との関係>

シバの生産地では、刈り込み耐性が強く、年を経るごとに根株が強化する。ため、強害雑草とされている。また、オーストラリアなどでは侵略的な外来種として扱われているなど、我が国でも今後、牧草地や畑地、果樹園などでの強害雑草化が懸念されるため、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)により要注意外来生物に指定されている。

<生活史> 関東地方の例(目安)



綿毛をつけた刈ケンカルカヤ種子

<類似種> 在来のカルカヤには、草原生のメガルカヤ(雌刈萱)とオカルカヤ(雄刈萱)とがある。種子に綿毛をつける様子が似ているが、いずれも刈ケンカルカヤよりも草高が高くなり(1m以上)、茎はさほど扁平にならず、小穂も大型で種子の毛も長

<一言うんちく>

北米原産ですが、現在ではアジア、オーストラリア、太平洋諸島など環太平洋の各地に帰化しています。我が国では、1940年頃に名古屋から西日本を中心に拡がり始めました。酸性土壌に強いため、化学肥料の過剰使用などによる土壌の酸化に伴い増加する可能性も指摘されています。



草原に生える在来種のメガルカヤ

<人との関わり合い>

茅葺きの屋根をほとんど見かけなくなり、「茅」の用途がなくなりつつある中、新たな「カルカヤ」が各地で跋扈しつつある。本種の分布の拡大には、芝の全国的な流通も要因の一つとされる。いまや、晩秋から初冬にかけての身近な野辺に綿毛や紅葉が目立つ刈ケンカルカヤは、セイトカワダチソウと並んで、我が国の近年の里の秋を彩る景観として定着しつつある。このようにして、里山や里地の風景も、いつのまにかアメリカなどからきた草花にとって代わられてしまうであろう。

<俳句や短歌への登場>

刈ケンカルカヤとしての、俳句や短歌への登場はまだ少ない。

屋根を葺く「茅」(メガルカヤだけでなく、ススキやチガヤなども含む)は、秋の季語として知られている。

たとえば、

わが書きし文字さへふりぬ萱薄 蝶夢 など